



2015年12月期上半期 2015年1月1日～2015年6月30日

SIOS Report Vol.18

SIOS is Innovative Open Solutions

1997年の創業以来、オープンソースソフトウェアの開発と利用を軸に、OS（基本ソフトウェア）からWebアプリケーションにいたるソリューションの提供を通じて、新たな価値を創造します。

株主・投資家の皆様へ

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2015年12月期上半期（2015年1月1日～2015年6月30日）の「SIOS Report Vol.18」を皆様にお届けし、当上半期の業績のご報告とともに、今後の見通し等につきましてご説明申し上げます。



代表取締役社長

喜多 伸夫

当上半期のポイント

売上高

4,392 百万円

(前年同期比20.5%増)

営業損失

55 百万円

(前年同期は営業利益53百万円)

EBITDA^(※)

△21 百万円

(前年同期は86百万円)

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

当上半期におきましては、中期経営計画で掲げた成長の実現に向け、「継続的な研究開発投資」「新たな事業創出」「コアビジネスの競争力強化」に取り組みました。

これらの結果、当上半期における売上高は4,392百万円と前年同期比20.5%増となりました。

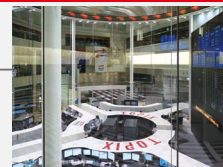
利益面におきましては、自社製品・サービス開発のための研究開発費305百万円（前年同期比38.3%増）及び営業・マーケティングに係る費用の増加等により、販売費及び一般管理費は1,636百万円（前年同期比19.3%増）となり、営業損失は55百万円（前年同期は営業利益53百万円）、当社グループの重視する経営指標であるEBITDAは△21百万円（前年同期は86百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、上記中期経営計画への取り組みと成果へのご理解を、何卒宜しくお願い申し上げます。

東京証券取引所市場第二部への上場市場変更

当社は、2004年8月に東京証券取引所マザーズに上場し、2015年5月1日をもって、東京証券取引所第二部に市場変更しました。

今後も皆様のご期待にお応えできるよう、更なる業容の拡大と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますよう、宜しく申し上げます。



NEWS

目次

株主・投資家の皆様へ	1	中期基本方針及び	9
財務ハイライト	2	サイオスの取り組み	4、5、6
中期基本方針及び損益計画	3	要約連結財務諸表	7、8
		事業概況（連結）	9
		会社概要／株式の状況	10

財務ハイライト

(単位：百万円)

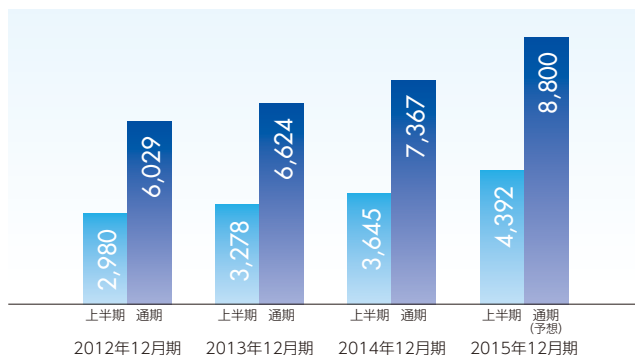
	2012年12月期		2013年12月期		2014年12月期		2015年12月期	
	上半期	通期	上半期	通期	上半期	通期	上半期	通期(予想)
売上高	2,980	6,029	3,278	6,624	3,645	7,367	4,392	8,800
営業利益(△損失)	△ 0	111	147	246	53	65	△ 55	△ 300
経常利益(△損失)	△ 2	106	157	265	60	81	△ 33	△ 300
当期純利益(△損失)	△ 45	34	116	110	4	39	△ 54	△ 330
包括利益	△ 40	85	192	230	△ 24	115	△ 43	—
EBITDA*	146	293	181	322	86	125	△ 21	△ 250
総資産	2,884	3,005	3,228	3,196	3,360	3,651	3,728	—
純資産	1,385	1,514	1,694	1,751	1,691	1,733	1,696	—
1株当たり当期純利益(△損失) (円)*	△ 5.21	3.97	13.44	12.71	0.47	4.48	△ 6.31	△ 38.39
1株当たり純資産 (円)	160	174	194	199	192	200	190	—
社員数 (名)*	228	232	232	238	262	248	387	—

*EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

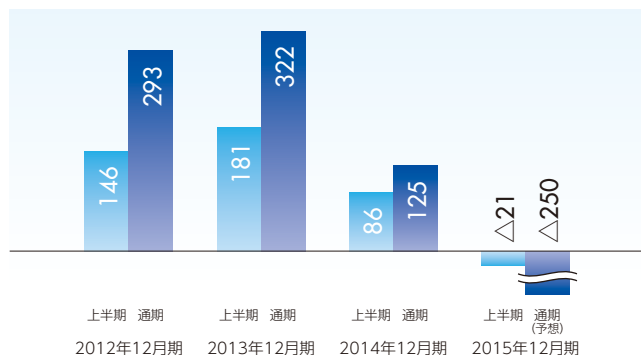
*2013年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っており、各会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算定しております。

*社員数は、期末時点での正社員人数と派遣社員・契約社員の平均雇用人数の合計です。

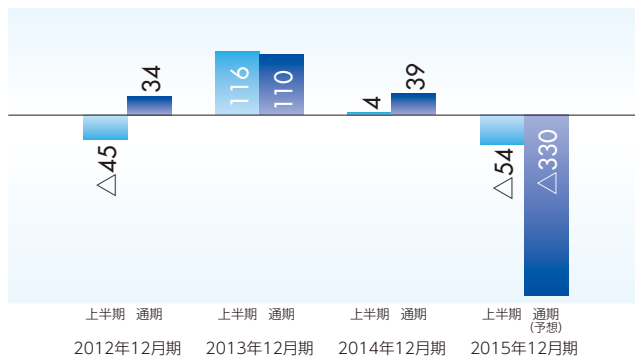
売上高



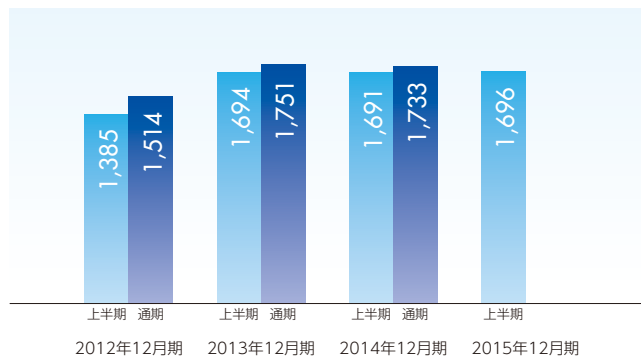
EBITDA



当期純利益(△損失)



純資産



中期基本方針及び損益計画

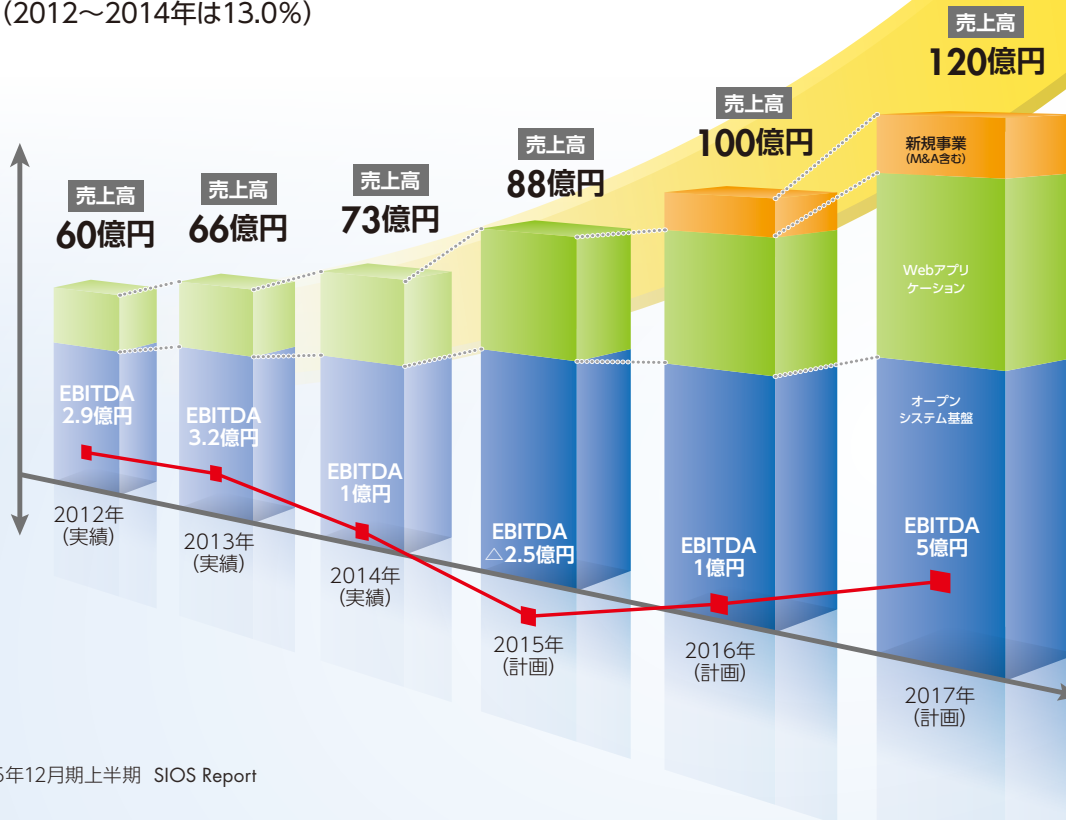
当社グループは、中期経営戦略で掲げた成長の実現に向け、「継続的な研究開発投資」「新たな事業創出」「コアビジネスの競争力強化」に取り組んでいます。

中期 基本方針

- 1 継続的な研究開発投資
- 2 新たな事業創出 (M&A含む)
- 3 コアビジネスの競争力強化

→ 2015～2017年の年平均成長率は17.7%

(2012～2014年は13.0%)



中期基本方針及びサイオスの取り組み

1 継続的な研究開発投資

2 新たな事業創出 (M&A含む)

3 コアビジネスの競争力強化

研究開発の成果としては、機械学習技術^{(*)1}を用いたITオペレーション分析^{(*)2}ソフトウェア「SIOS iQ^{(*)3} Standard Edition」を米国、日本で本年7月より発売しています。

「SIOS iQ Standard Edition」は、本年2月から提供中の無償版である「SIOS iQ Free Edition」の機能に加え、VMware 仮想環境の性能問題の原因分析と予測をする機能を新たに搭載、システムの性能問題の迅速な解決と未然防止に貢献します。

SIOS IQ

「SIOS iQ Standard Edition」は、成長し続けるビジネスやサービスを支えるシステムに対するニーズに応えるべく、システム的最適化と問題解決を迅速に行うために、機械学習技術を用いて開発されました。

今回新しく追加された性能問題の原因分析・予測機能は、従来の異常検出方法とは全く異なるアプローチを採用し企業のシステム管理者と運用担当者に新しい問題解決手法と運用効率の改善をもたらします。

24時間×365日、システムを構成する全ての要素の振る舞いを包括的に監視し、異常を検出すると同時に原因分析を行い、システムの深刻な問題の発生を未然に防止し、サービス・レベルの向上にも寄与します。

市場における課題・ニーズ

多くのサーバーを使用し、大量のデータ処理を行う企業では、IT管理者への負荷増大が深刻な問題。

SIOSによる課題解決

「SIOS iQ」は、システム障害の発生リスクを未然に防ぎ、IT管理者の作業負荷を大幅に軽減。

グローバルに販売開始

- ▶ 2015年7月14日に米国で発売。
- ▶ 2015年7月28日に日本で発売。

SIOS iQ



- ▶ 使いやすいインターフェース
- ▶ 機械学習技術により障害発生を予防
- ▶ ITオペレーションの最適解を自動化
- ▶ インフラ全体の効率化・コスト低減

(*)1 人間が行っている学習能力と同様の機能をコンピュータで実現しようとする技術、さまざまなデータから有益な情報を発掘するもの。

(*)2 IT運用で発生するビックデータを分析し、実用的で分かりやすい情報へと変換するもの。

(*)3 仮想及びクラウド環境においてアプリケーションの稼働状況を包括的に監視・分析・最適化し、パフォーマンスや効率性の向上、信頼性保護を図り、複雑な課題を解決する製品。

中期基本方針及びサイオスの取り組み

- 1 継続的な研究開発投資
- 2 新たな事業創出 (M&A含む)
- 3 コアビジネスの競争力強化

新たな事業への取り組みとしては、株式会社キーポート・ソリューションズ（以下、KPS）の株式を取得し子会社化、加えて、株式会社プレナスと共同出資により、BayPOS, Inc.を米国に設立しました。

株式会社キーポート・ソリューションズの株式取得

技術開発力の強化、両社顧客へのサービス拡充、新規顧客獲得を目的に、KPSの株式を取得し子会社化しました。

KPSは金融IT分野において、多重処理や拡張性に優れたオブジェクト技術をベースに、システムコンサルティング、開発・運用・保守、投資情報サイト等の提供を行っています。

キーポート・ソリューションズの概要

名称	株式会社キーポート・ソリューションズ
所在地	東京都中央区新川1-28-38
代表者	代表取締役社長 森田 昇
資本金	232百万円
設立年月日	1999年6月
出資比率	当社90.5%、その他9.5%



米国における共同出資による合併会社設立

当社グループのIT最先端技術開発力と、プレナスグループの飲食事業運営の経験を活かし、プレナスとの共同出資により、海外飲食店向けITシステムの開発・販売を行う合併会社BayPOS, Inc.（以下、BayPOS）を米国に設立しました。

BayPOSは、プレナスが運営する定食レストラン「やよい軒」(YAYOI)の米国出店におけるIT化を支援し、さらに海外における和食ブームを受け、海外飲食店各社のIT化を支援するビジネスを行います。

BayPOSの概要

名称	BayPOS, Inc.
本店所在地	米国 カリフォルニア州
設立年月日	2015年6月
出資比率	株式会社プレナス51%、当社49%



1 継続的な研究開発投資

2 新たな事業創出 (M&A含む)

3 コアビジネスの競争力強化

コアビジネスの競争力強化では、MFP向けソフトウェア製品⁽⁴⁾の機能拡張、「LifeKeeper」⁽⁵⁾のバージョンアップ等に注力しました。

QuickスキャンV3

タブレット端末のようなタッチパネルでの簡単操作、リコー社製MultiLink-Panel版複合機に対応。

■「QuickスキャンV3」 の操作性向上



わかりやすい
ナビゲーションバー



スキャンプレビュー
機能



※スキャンした結果を事前に確認可能

ライブラリ連携



「LifeKeeper」クラウド対応

企業におけるクラウド⁽⁶⁾利用の増加、多様化が益々進む中、「LifeKeeper」のクラウド対応を推進。

市場における課題・ニーズ

企業は万一の障害発生時のリスクから、基幹業務をクラウド環境に移行させることが大きな課題。

SIOSによる課題解決

稼働系に障害が生じた場合に待機系に自動的に切り替えを行う冗長化技術を用いた「LifeKeeper」のクラウド対応強化を進める。

「LifeKeeper」クラウド対応強化の事例

高度な技術力と国内有数のクラウド導入実績を誇る富士通エフサスとクラウドシステム構築分野で協業。



⁽⁴⁾ プリンター、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP (Multi Function Peripheralの略) という。MFPを効率的に利用できる文書管理ソフトウェア「Quickスキャン」等の開発・販売・保守。

⁽⁵⁾ 本番稼働のサーバーとは別に同じ環境の予備サーバーを待機させ、万一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うHA (ハイアベイラビリティ) クラスタリングソフトウェア。

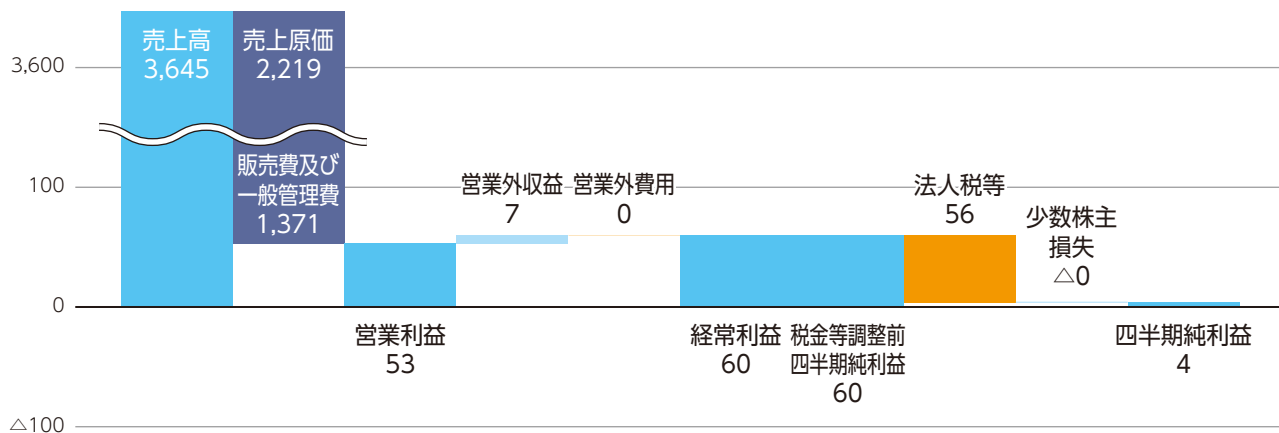
⁽⁶⁾ クラウド コンピュータ処理をインターネット経由で、サービスとして利用できる新しいコンピュータの利用形態。

要約連結財務諸表

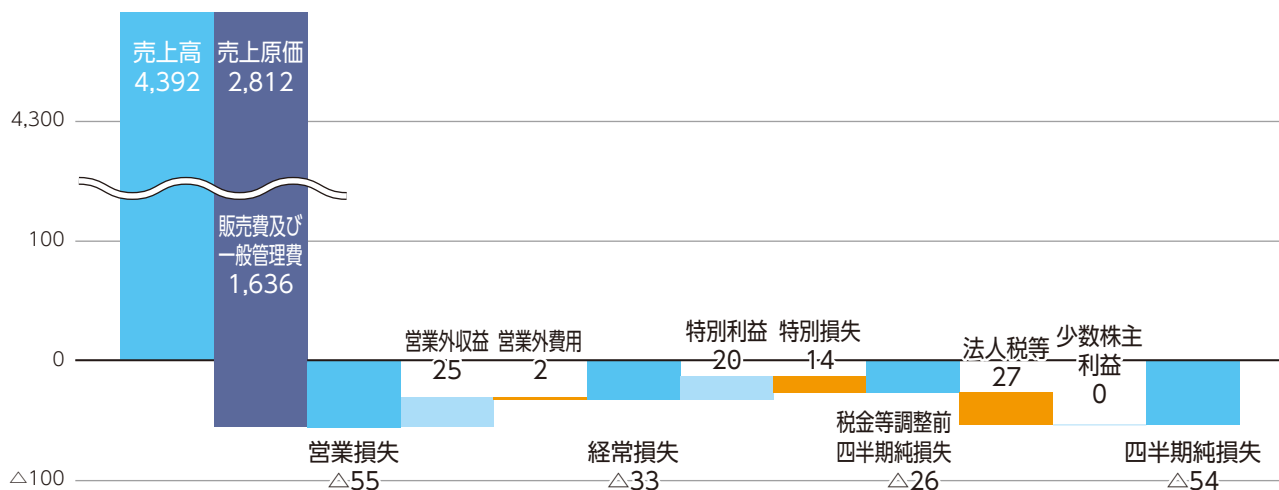
連結損益計算書

(単位：百万円)

前第2四半期連結累計期間 (自2014年1月1日 至2014年6月30日)

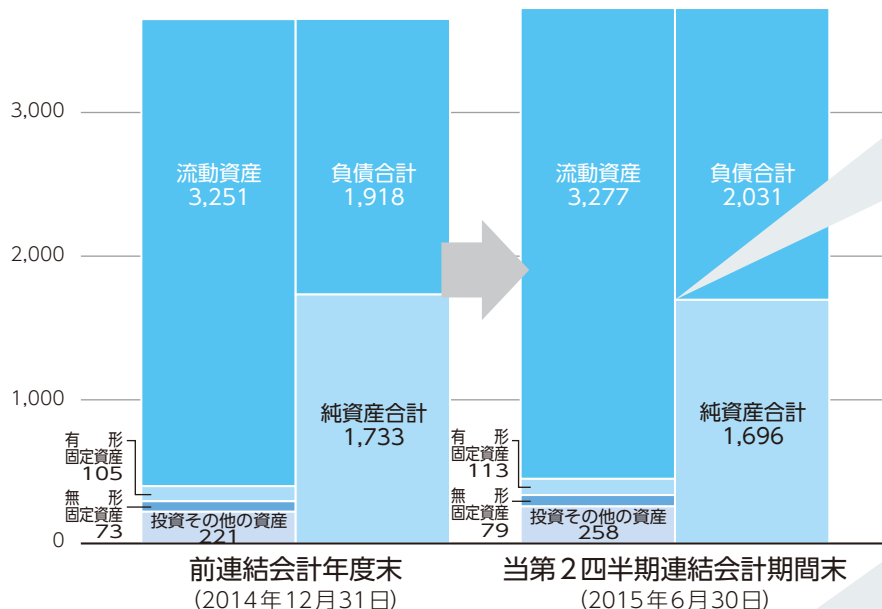


当第2四半期連結累計期間 (自2015年1月1日 至2015年6月30日)



連結貸借対照表

(単位：百万円)



財務状態

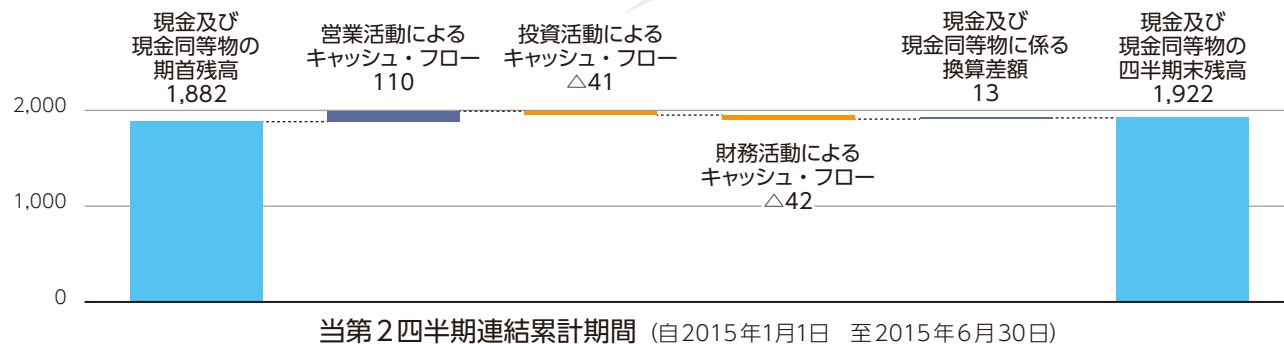
現金及び預金は40百万円増加し、手元資金は約20億円となり、今後の成長戦略を加速するための潤沢な資金を確保。有利子負債は4百万円で実質無借金経営であり、自己資本比率は43.8%と前期末比で若干低下したものの、健全な財務体質を維持。総資産は前期末比76百万円増の3,728百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失26百万円、減価償却費28百万円、売上債権の減少額132百万円等により110百万円。投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出480百万円、投資有価証券の売却による収入573百万円等により△41百万円。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額42百万円等により△42百万円。この結果、2015年6月末における現金及び現金同等物の残高は1,922百万円となりました。

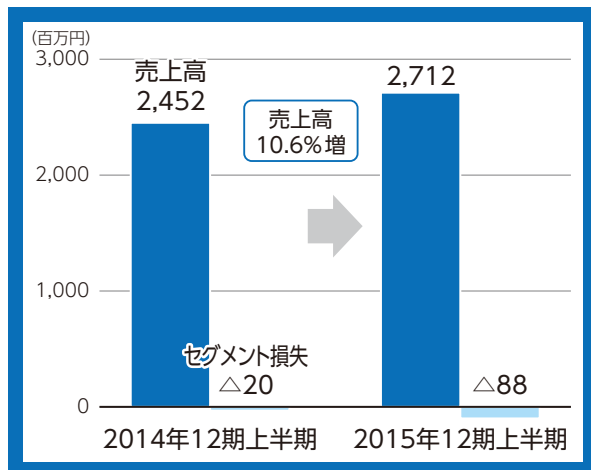
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)



事業概況 (連結)

オープンシステム基盤事業



売上高 **2,712** 百万円 (前年同期比 10.6%増)

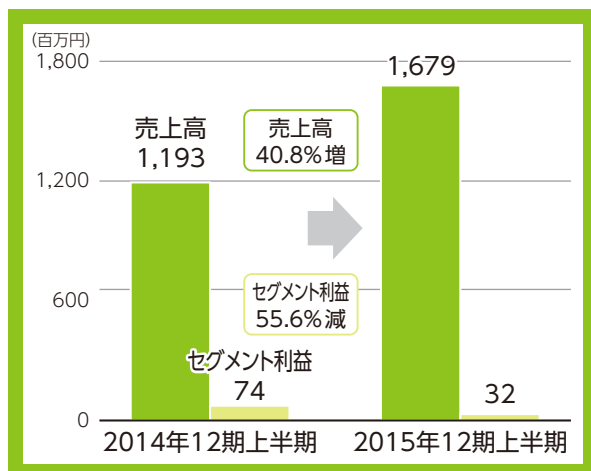
国内
→Red Hat, Inc.関連商品の販売は順調
→OSSサポートサービスやOSS関連商品が堅調
→「LifeKeeper」は増収基調へ

海外
→米州、欧州、アジア・オセアニア地域が増収

セグメント損失 **△88** 百万円 (前年同期は △20百万円)

→ITオペレーション分析ソフトウェア「SIOS iQ」の開発
→「Red Hat Enterprise Linux」の競争激化による利益率の低下
→営業・マーケティング費用の増加

Webアプリケーション事業



売上高 **1,679** 百万円 (前年同期比 40.8%増)

→キーポート・ソリューションズの子会社化による売上加算
→MFP向けソフトウェア製品が順調

セグメント利益 **32** 百万円 (前年同期比 55.6%減)

→MFP向けソフトウェア製品の機能拡張
→新製品・サービスのための研究開発を推進

会社概要

会社名	サイオステクノロジー株式会社 (英語表記：SIOS Technology, Inc.)		
本社住所	東京都港区南麻布2-12-3		
設立	1997年5月23日		
資本金	1,481百万円		
社員数	連結 387名 個別 188名 (社員数は、期末時点での正社員人数と派遣社員・契約社員の平均雇用人数の合計。)		
役員	代表取締役社長	喜多伸夫	
	取締役	大塚厚志	
	取締役	福田敬	
	取締役	藤枝純教	
	常勤監査役	平松祐樹	
	監査役	古畑克巳	
	監査役	齋藤哲男	
子会社	SIOS Technology Corp. (California, USA)		
	株式会社グルージェント (東京都港区)		
	赛欧思(北京)科技有限公司 (北京市、中国)		
	株式会社関心空間 (東京都港区)		
	Glabio, Inc. (California, USA)		
	株式会社キーポート・ソリューションズ (東京都中央区)		

株式の状況

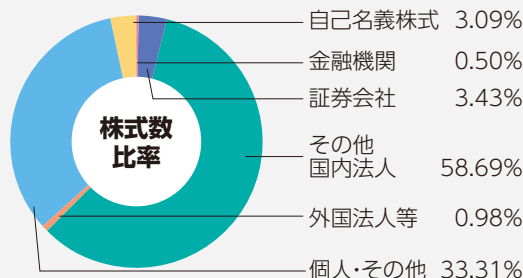
発行可能株式総数	15,000,000株
発行済株式総数	8,874,400株 ※自己株式274,241株を含む
株主数	3,020名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
(株)大塚商会	1,593,300	18.53
テンプスタッフ(株)	1,500,000	17.44
喜多エンタープライズ(株)	920,000	10.70
日商エレクトロニクス(株)	746,300	8.68
喜多伸夫	257,700	3.00
中西隆之	112,800	1.31
富士通(株)	110,000	1.28
野村證券(株)	107,400	1.25
(株)SBI証券	106,900	1.24
稲畑産業(株)	100,000	1.16

(注)持株比率は、自己株式274,241株を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸ノ内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び 全国支店で行っております。 ■住所変更等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設され ました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住 友信託銀行株式会社にお申出ください。
公告の方法	電子公告とします。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公 告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲 載します。
上場取引所	東証二部
コード番号	3744



サイオテクノロジー株式会社
〒106-0047 東京都港区南麻布2-12-3
www.sios.com